


# カーボンフットプリント 登録情報



1. 製品情報			1.7 製品写真
1.1	登録番号	CR-CI06-20009	 <p>上：基本筐体 下：ラック姿※ ※当該システム構成を表すものではありません</p>
1.2	製品名称（日本語）	Hitachi Virtual Storage Platform G130 (型式：HT-40SG-CBXSLC)	
	製品名称（英語）	Hitachi Virtual Storage Platform G130 (Model number：HT-40SG-CBXSLC)	
1.3	製品型式	HT-40SG-CBXSLC※ ※コントローラシャーシの型式、ドライブボックスを追加することによりドライブ搭載数を拡張可能	
1.4	製品の主要仕様・諸元	ミッドレンジディスクアレイ -コントローラシャーシ HT-40SG-CBXSLC(3.5型ドライブを12台搭載可)  -ドライブボックス 下記を接続可能 HT-F40SG-DBS(2.5型ドライブを24台搭載可) 最大3台 または、 HT-F40SG-DBL(3.5型ドライブを12台搭載可) 最大3台  -想定使用年数 5年	
1.5	CFP算定単位	販売単位（台あたり）	
1.6	公開日	2020年3月24日	

2. 事業者情報		
2.1	事業者名（日本語）	株式会社 日立製作所
	事業者名（英語）	Hitachi, Ltd.
2.2	電話番号	03-5471-2745

3. CFP算定結果およびCFP宣言の内容			
3.1	CFP算定結果 (カーボンフットプリント)	29,000	kg-CO <sub>2</sub> e (端数処理により左記の値は内訳の合計値と若干異なる場合があります)
3.2	内訳（ライフサイクル段階別、プロセス別、フロー別、等）		
	原材料調達段階	2,500	kg-CO <sub>2</sub> e
	生産段階	600	kg-CO <sub>2</sub> e
	流通段階	69	kg-CO <sub>2</sub> e
	使用・維持管理段階	26,000	kg-CO <sub>2</sub> e
	廃棄・リサイクル段階	48	kg-CO <sub>2</sub> e
	数値表示、追加情報の内容		
	数値表示	<記載内容>	<数値表示の単位>
		12kg	1TB・1年あたり (端数処理により左記の値は「3.1 CFP算定結果」と若干異なる場合があります)
		自社比 -37%	従来機種と比較した際の、1TB・1年あたりのCO <sub>2</sub> 排出量の削減率
従来機種（発売時期 2015年4月）<Hitachi Virtual Storage Platform G100>と比較した際の、1TB・1年あたりのCO <sub>2</sub> 排出量の削減率をCFPマークに記載			

3.3	追加情報の記載内容	<p>【対象製品】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・製品名 Hitachi Virtual Storage Platform G130</li> <li>・CO<sub>2</sub>排出量の算定条件 コントローラシャーシ(HT-40SG-CBXSLC) 1台とドライブボックス(HT-F40SG-DBL) 3台にドライブを最大数搭載した構成で算定。</li> </ul> <p>&lt;主な製品仕様&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>-記憶容量※1 470 TB</li> <li>-想定使用年数※2 5年</li> <li>-ドライブの種類 磁気ディスクドライブ</li> <li>-ディスク回転数 7.2 krpm</li> <li>-ディスクサイズ,台数 3.5 inch-48台</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・CO<sub>2</sub>排出量 <ul style="list-style-type: none"> <li>-製品あたり 29 t-CO<sub>2</sub></li> <li>-1 TB・1年あたり 12 kg-CO<sub>2</sub>/TB 年</li> </ul> </li> </ul>	<p>【従来製品】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・製品名 Hitachi Virtual Storage Platform G100</li> <li>・CO<sub>2</sub>排出量の算定条件 コントローラシャーシ(HT-40SD-CBSL0) 1台とドライブボックス(HT-F40SD-DBL) 4台にドライブを最大数搭載した構成で算定。</li> </ul> <p>&lt;主な製品仕様&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>-記憶容量※1 352 TB</li> <li>-想定使用年数※2 5年</li> <li>-ドライブの種類 磁気ディスクドライブ</li> <li>-ディスク回転数 7.2 krpm</li> <li>-ディスクサイズ,台数 3.5 inch-60台</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・CO<sub>2</sub>排出量 <ul style="list-style-type: none"> <li>-製品あたり 34 t-CO<sub>2</sub></li> <li>-1 TB・1年あたり 19 kg-CO<sub>2</sub>/TB 年</li> </ul> </li> </ul>
		<p>・測定条件：使用時電力は、省エネ法(2011年度規定)で定める特定の測定方法(最大構成、Idle状態)により測定しております。</p> <p>対象製品の特徴 (従来機種比較)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大容量HDD(Hard Disk Drive)採用によるエネルギー消費効率の向上</li> </ul> <p>※1 本容量は1TByte=1,000,000,000,000Byteとして計算した値です。  ※2 想定使用年数は、法定耐用年数(電子計算機 その他のもの 5年)として計算しております。</p>	
3.4	備考	製品の改良により予告なく記載されている仕様が変更になることがあります。	

4. CFP算定結果の解釈	
4.1	CFP算定結果の解釈
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用・維持管理段階における温室効果ガス排出量が最も多いため、使用時の省エネ性能が非常に重要な要素だと言えます。なお、使用・維持管理段階は、一般的な条件を設定して評価したため、お客様の利用条件と同じでない場合があります。</li> <li>・CFP算定にあたり、原料使用量は当社データを利用していますが、数千点におよぶ部品の製造時データを収集することは困難なため、一般的な原料製造時のデータを利用しています。そのため、当製品固有の特徴を反映していない場合があります。</li> </ul>

5. 算定条件			
5.1	認定CFP-PCR名称	IT機器	5.2 認定CFP-PCR番号 PA-CI-06
5.3	利用した二次データの考え方	基本データベースver.1.01、国・地域間距離データベースを優先して利用しつつ、利用可能データ(国内)ver.1.04で補完した。	

6. 検証情報				
6.1	検証方式	個品別検証方式	6.2 システム認証番号	-
6.3	検証番号	CV-CI06-2009	6.4 検証合格日	2020年3月17日

7. プログラム情報				
7.1	プログラム名	カーボンフットプリント コミュニケーションプログラム	7.2 プログラムウェブサイト	<a href="http://www.cfp-japan.jp">http://www.cfp-japan.jp</a>

7.3	プログラム運営者	一般社団法人 サステナブル経営推進機構	7.4	プログラム運営者住所	東京都千代田区鍛冶町2-2-1
-----	----------	---------------------	-----	------------	-----------------

8	備考	—
---	----	---

(※) 二次データについては、CFPウェブサイト下記ページ参照のこと。  
<http://www.cfp-japan.jp/calculate/verify/data.html>